

(別添1)

【 太子町 】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	909	905	917	889	852
② 予備機を含む 整備上限台数	1045	1,040	24	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	905	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	905	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	125	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	125	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	13.8%	0%	0%	0%

(端末の整備・更新計画の考え方)

○端末の整備について

- ・令和7年度 端末一斉の更新の実施 (1,030台)

○更新後の現行端末の活用方法

- ・比較的状态の良い端末 (500台程度) を残す
- ・故障や児童生徒の増加により端末が不足した際に活用
- ・その他必要となった場合活用

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,030台 (内500台程度は残地)

○処分方法

- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託

○端末のデータの消去方法

- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール (予定)

- 令和7年4月 GIGAスクール2期端末導入及び引き渡し業者業者決定
- 令和8年3月 新規購入端末の使用開始
- 令和8年3月 使用済端末の事業者への引き渡し

(別添2)

【 太子町 】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (100%)
3/3校 (100%)

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

更新後ネットワーク速度を維持するために、定期的な速度の点検と学校へのヒアリングを行うなど、現状の維持や課題解決に努め安定的なネットワーク環境を整える。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

課題を特定した際は、迅速に課題解決に向けて取り組みネットワーク環境の改善を行う。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

現在課題は無く授業への支障はない状況である。

(別添3)

【 太子町 】
校務DX計画

太子町教育委員会では下記の観点においてDX化に取り組んでいく計画である。

○データサーバ及び校務支援システムのクラウド化による非常時の対策と教職員の働き方について

本町学校施設のデータ等は、学校のサーバ機器で管理しており定期点検の停電時や災害等の非常時には教職員の事務が滞ってしまう状況である。

今後、文部科学省が掲げるゼロトラストに向けてデータサーバ及び校務支援システム等のクラウド化に向けて進めることにより、非常時の学校業務を可能にする環境整備と教職員の働き方改革を目指す。

(別添4)

【 太子町 】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

デジタル教科書やAIドリル等を活用した個別化学習の確立により、児童生徒個々の学習状況に応じて最適な学びを提供することで、より効率的な学習を可能とできる。また、授業支援ソフトを活用することで、児童生徒同士の考えの共有や教職員が児童生徒の利用状況を把握しやすくなることで、児童生徒に向き合う時間を充実することができる。

2. GIGA第1期の総括

- ・令和2年度に町内全児童生徒及び全教職員用（予備機を含む）に対して、タブレット端末を整備し、令和3年度に配備が完了。
- ・GIGA第1期については、授業支援ソフトや各種デジタル教科書、学習e-ポータルサイトL-Gate、AIドリル等を導入し、児童生徒同士の考えを共有する場が増え、自分の意見を持って授業に参加できるようになった。また、AIドリルを活用した授業や持ち帰り学習を行うことで、児童生徒の個別の学習状況にあわせた学習に取り組むことで、認知能力と非認知能力を共に伸ばすことのできる環境となった。
- ・教職員に向けては、校務支援システムを導入することで働き方の改善を図り、児童生徒に向き合う時間を拡充することができた。

○成果

5年生までに受けた授業で受けた授業でPC・タブレットなどICT機器を、どの程度使用しましたかという問いに対して、当てはまる・どちらかといえば当てはまるに回答した割合が

全国平均59.5%

太子町 65.1%

以上のアンケート結果となった。全国平均と比較しても大きく上回る数値となった。今後もこの数値を伸ばしていけるように活用を推進したい。

○課題

- ・更なる活用を促進のため教職員向けの研修を実施し、指導環境を整える。

3. 1人1台端末の利活用方策

1. タブレット端末の積極的利用

- ・個別最適な授業や有効的な持ち帰り授業を積極的におこなうために、教職員の授業づくりに関する研修を重点的に取り組む。授業づくりとタブレット端末の活用をセットで考えることで、よりタブレット端末の効果が発揮されることを期待する。
- ・持ち帰り学習を日常化することで、タブレットでの学習を持続的に行う。

2. 学びの多様性に柔軟に対応するICT

- ・先般の学校ではICTが欠かせない存在となっており、GIGA 2期では、不登校や支援教育、多言語指導等が必要な児童生徒に対しても柔軟に対応する必要がある。持続的な支援を進めるとともに機能の充実しICTの活用を進めていく。